

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービスまはる宜野湾志真志				公表日	2025年5月14日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15		活動内容ごとにスペースを区切り、個別支援・集団活動・静かな休憩スペースなどをバランスよく配置する。	机やロッカーの配置等は工夫しているが、少し手狭に感じる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15		人員配置と利用人数の調整をしっかりとし、法令遵守で安全な環境づくりを行なっている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切に なされているか。	14	1	活動エリア（遊び・学習・食事・休憩など）を明確にゾーニングし、色分けや仕切りを活用して視覚的に認識しやすくしている。	静かに過ごす、集中して取り組みやすいような椅子やラグなどの場所の設定を行う必要がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15		児童受け入れ前に事業所や車両の清掃を行っている。活動に合わせた環境設定はなされている。	毎朝の掃除では行き届かない場所がある為、時間をとって掃除を行って行きたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15		児童が、職員に確認を取り静養室や会議室等の使用が認められている。	静養室があるが、1人の空間がほしいこどもが複数人いた場合には狭い為、別の落ちつける場所を作りたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	14	1	ミーティングや面談を行い業務改善を事業所全体で行っている。	業務改善の成果を可視化し、職員のモチベーションを高める。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		評価表を記入しやすく工夫し、保護者の意見を幅広く収集する。集まった意見を職員間で共有し、すぐできる改善と長期的な改善を分けて対応する。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		リーダーによる個人フィードバックやスタッフ全員での振り返りの時間を設けて業務改善に繋げている。	一部の職員が意見を出しにくい様子が見られるので、匿名でも意見を出せる仕組みを作る。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14	1	第三者委員による評価をいただき業務改善につなげている。	第三者評価制度があるのは知っているがあまり意識することがないため、個人的に積極的に意見を取り入れていけるようにしたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15		会社内に研修委員会を設け、定期的に社内研修がある。また、社内以外の研修受講も積極的にサポートされている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14	1	支援プログラムの作成を行い、公表状況に関する届出書を提出している。	支援プログラムの公表がわからない。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	15		児童、保護者様に対し随時モニタリングを行い個別支援計画を作成を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14	1	個別支援計画書原案作成後に職員と個別支援会議を行い個別支援計画書に反映させている。	参加できていない現状がある。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	2	実施状況を記録・振り返り、計画に沿った支援ができていないかを確認。また、計画を定期的に見直し、子どもの変化に応じた柔軟な支援を提供する。	職員へ支援内容を落とし込み適切な支援を行っているよう、共有できる時間を多く設ける必要がある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15		標準化されたアセスメントツールを活用し、客観的な評価を行う。また、日々の行動観察を記録し、細かな変化を把握する。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15		アセスメント結果を基に、子どもに合った具体的な支援内容を計画する。また、職員間や保護者と情報を共有し、支援の方向性を統一する。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15		職員がチームでアイデアを出し合い、様々な視点を取り入れた活動を企画する。また、子どもの発達段階や特性を考慮し、個別のニーズに合ったプログラムを作成する。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15		定期的にプログラムを見直し、季節や子どもの成長に応じて変化させ、児童の意見も取り入れながら活動プログラムを作成している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	14	1	個別・集団活動を組み込んだ計画を元に支援を行っている。	職員へ支援内容を落とし込み適切な支援を行っているよう、共有できる時間を多く設ける必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15		朝礼、昼礼を活用して、活動内容の共有や役割分担の確認を行なっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	1	職員間でこどもの様子や支援方法を統一し、一貫した対応を実施する。また、記録を残し、次回の支援や保護者連携に活かせるよう工夫する。	勤務時間の関係で参加できない職員がいることがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15		支援終了後に記録を共有し、職員間での振り返りや次回の支援に活かす。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15		更新時期や必要に応じてモニタリングを行い見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	12	3	4つの基本活動を踏まえた支援を行っている。	地域交流を増やしていく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	14	1	こどもが選べる活動の選択肢を提供し、自己決定を促進。また、自己表現の場を提供し、こどもが自分を表現できる環境を作る。	自己決定する力を育てるための基礎を固めている。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15		児童発達支援管理責任者は必ず参加しており、必要に応じてその他スタッフも情報共有のために参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	1	関係機関との連携を適宜行っている。	教育機関との関わりについては希薄な部分があるため、教師との引き継ぎの機会を確保するために学校側へ働きかけるなどして改善を図っている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	14	1	スケジュール表やスクリレ等を活用して情報共有を行っている。	情報共有できていない学校もあるため、すべての学校と連携ができるような体制を整える。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	12	3	新しく施設利用を行う前には担当者会議等を行い、児発管を中心に情報共有を進めている。	共有ができないケースもある。その際は保護者様からヒヤリングを行っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	14	1	早期からの情報共有、保護者との調整を通じて、こどもにとってのスムーズな移行を支援している。また、移行先と会議を必要に応じて行っている。	主に児発管が行っているため、移行の会議後に卒所児童であっても共有を深める必要がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	14	1	必要に応じて児童発達支援センターと連絡を取り合い、情報共有を行なっている。	受けた助言内容を職員へ適切に落とし込む必要がある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	13	2	地域資源を活用し地域の児童と交流ができるよう環境設定を行っている。	事業所行事に地域の方をまねく等して交流を深めていけるようにしていく。

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	14	1	あったらいいなを実現するために必要に応じて参加をしている。宜野湾市の適期的に開催されている会議には毎回参加をしている。	自立支援協議会について職員へ周知の必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15		定期的な面談や情報交換を行い、保護者の意見や希望を反映することで、支援が保護者と連携しながら進める。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13	2	保護者会を行ったり、自宅のできる支援などを送迎時にスタッフから保護者様へ申し送りしたりしている。	保護者参加型の研修を考えていく必要がある。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13	2	契約時に児発管から、不明点が残らないように丁寧な説明を実施している。	契約時に行っているが、職員の理解も深めるため周知していく。
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15		個別面談や対話の機会を通じてこどもや家族の意向をしっかりと確認し、支援計画に反映する。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	14	1	保護者が計画に納得し、同意を得る過程で柔軟な対応やフィードバックを取り入れ、計画の実行後にも定期的に進捗を報告し、必要に応じて見直しを行う。	児発管による説明が主なので、今後職員へ周知の徹底を
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15		適切なタイミングでの面談、個別の支援プランの提供、専門的な助言や支援を行い、定期的なフォローアップを実施する。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	1	保護者同士やきょうだい同士が交流できる機会を提供することで、家族全体のサポート体制をつくる。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15		明確な相談窓口の設置、柔軟な対応体制、相談後のフォローアップを重要している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15		SNSやまはるニュースを通して、活動内容や行事の情報を共有している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15		個人情報保護に関する社内ガイドラインを作成し、スタッフ全員に定期的に研修を実施している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15		こどもには絵カードや写真を使った支援を行い、保護者には視覚的にわかりやすいプランやスケジュールを提供する。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	10	地域新聞やSNSを利用して、施設のイベントやこどもたちの活動の様子を定期的に発信する。	事業所イベントに兄弟や保護者を招いたり地域でのイベントに参加する等しているため、今後は地域の方とも交流を持てるイベントを開催していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15		マニュアルを作成した上で、訓練の実施の際には消防にも共有し、スタッフ間での確認も密に行いながら、訓練を行なっている。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	1	救急救命講習の受講やBCPに関する研修や情報共有の機会を設けながら、定期的に訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15		モニタリング等で保護者から聞き取りを行い、職員へ共有をしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15		アレルギー児童ごとに個別対応マニュアルを作成し、緊急時に備えて全職員に配布して周知徹底する。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	1	安全計画を確認しながら、他事業所での取り組みの意見交換や、日々の運営が安全に行われるように事故等の事例検討などを行い、ミスが起こらない環境づくりを実施している。	

へ 応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	1	安全計画をまとめたパンフレットやチェックリストを保護者に配布し、家庭での対応方法についても合わせて案内する。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15		Googleドライブや業務用チャットツールを利用して、ヒヤリハット情報をリアルタイムで共有し、スタッフ全員がアクセスできるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15		虐待防止研修を年2回以上行い、報告書を提出し、全職員が適切な対応ができるようにしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	15		身体拘束適正化研修を年2回以上行うとともに、保護者様に対しては身体拘束に関する説明書の読みあわせを行っている。	